



国際ロータリー第2790地区第3分区B

市原ロータリークラブ会報



ENGAGE ROTARY
CHANGE LIVES

第2413回例会 2013年7月24日(水) SAA(司会)/山崎会員 会報担当/梶内会員

事務局 五井グランドホテル 市原市五井5584-1 TEL.0438-38-3535 例会場 五井グランドホテル 市原市五井5584-1

●点鐘 市原RC会長 泉水孝夫

●ソング それでこそロータリー

●お客様

千葉緑RC パストガバナー補佐 大木喜彦様

千葉緑RC 会長 岩村衛様、幹事 土橋昌江様

千葉南RC 五十嵐博章様

市原中央RC 会長エレクト 武田勲様

千葉北RC 会長エレクト 和田治文様

千葉西RC 内貴洲平様

●会長挨拶 市原RC会長 泉水孝夫



皆さんこんにちは。今日はPGの齊藤先生に卓話をお願いしました。

年度初めはまずロータリーについてのお話を伺って市原RCはスタートします。例会は研鑽と親睦です。今日伺ったお話で、もし分からない事があれば、そのままにしないでください。(私に質問されても答えられないと思いますが)

他の会員にその疑問をぶつけてみてください。それが親睦に繋がると思います。

それでは齊藤先生よろしくお願い致します。

●幹事報告

1.本日は齊藤博会員による『ロータリーについて』の卓話です。特に入会年数の浅い会員の皆様には、ロータリーの知識を深めて頂く大変貴重なお話が聞ける機会ですので、私も含め大変楽しみにしています。

2.来週7/31は、50周年記念例会に向けたフォーラムを実施致します。例会は早昼例会となりますので、お間違えの

の無い様に、ご出席お願い致します。

3.先週7/18に7月の合同幹事会が実施されました。その中で、地区行事について、年度初めは多くの地区行事が予定されています。8/3(土)国際奉仕・財団セミナー、8/9(金)クラブ奉仕委員長セミナー、8/9(金)第47回インターアクト年次大会、8/25米山クラブ委員長セミナー、9/1(日)ロータリー情報研究会、10/7(月)地区大会記念ゴルフ大会と続きます。各委員会委員長、委員の皆様には、セミナーへの出席をお願い致します。



●お客様ご挨拶

千葉緑RC 岩村会長様

千葉緑RC、本年度会長の岩村でございます。今年一年宜しくお願い致します。



千葉西RC 内貴様

千葉西RCの内貴と申します。本日は千葉緑RCの大木さんがこちらに出席して居るとお聞きしたので、私も出席させて頂きました。市原RCさんには何かといつもお世話になり、ありがとうございます。

委員会報告

三木会員 本日の齊藤博会員の卓話に当り、2011.9に行った、ロータリー情報研究会にて齊藤博会員の講演をまとめた『ロータリーあれこれ』をお配り致します。今日の、卓話と併せて、参考にして下さい。

●本日のプログラム・会員卓話

思いつくままに 序

平成25年7月24日

齊藤 博

ロータリー運動が今日の発展を迎えた原動力は、先輩ロータリアンが優れた原理を開発し、それを順守したからであり、ロータリー哲学を根底においたクラブであったからだろうと存じます。ロータリーが創立100有余年を経た此のとき、先人たちの

思いつくままに

市原ロータリークラブが誕生したのが昭和39年6月30日だそうで、私が川上・酒枝両先生のご紹介で当クラブに入会を許されたのがクラブ創立4年後の、昭和43年(1968)1月19日でした。そんなことで在籍45年になる訳です。

入会後の特別のオリエンテーションで、情報委員長だったんでしょう材木商の浜田会員様から、ロータリアンの条件としては

- 1.第一に、例会に出席する余裕があること。
- 2.第二に、会費その他を支弁出来る経済的余裕のあること。
- 3.第三に、奉仕の精神があること。

が条件です。如何ですか。と問われ、一瞬ぎょっとした記憶がございます。

確かにロータリーは、正業を営むことも、要求されております。

要は世間から非難されないで、尊敬される職業に従事し、社会貢献といわないまでも、その企業が社会から必要とされていることが重要で、そのような職業を経営する人達の集まりであれば、また必ずそれなりの人が寄って来るものようです。

佐藤千寿パスト・ガバナーの「ロータリーの波」と題した本がありましたが、その中で「所有と経営が分離している企業は、論理、道徳の維持は難しい」と言うことを記しておりました。確かにロータリーは創立当初のように、中小企業のオーナー、専門職を中心とした組織で固めてゆきたいものがございます。

ロータリーの発展の段階で、本来ロータリーは「職業奉仕」の為の団体であるあるという理論派と、ロータリーは「社会奉仕」事業をも行う所に奉仕団体としての意義があるとする実践派とに分かれて激烈に争いがあり、一時は分裂の危機もあったようで、此の二つの意見の対立を解消させて大同団結し、以後ロータリー運動の核心をなすに至ったのが1923年の「決議23-34号」であります。

所が「ポリオプラス計画」が発表されてから、奉仕概念を巡る論議が起こり、果たしてロータリーはどうなるのか、個人の修養を蔑ろにして、集団的の金力奉仕に墮落するのか論議がございましたが、結果、集まった金額は目標総額の60%に過ぎなかった。

そこで、RIは、国際的事業を正当化するために、「決議23-34号」を廃止することを前提として「社会奉仕に関する新方針」を規定審議会に提出したのですが、理事会が此の提案を取り下げ、「決議23-34号」の存続が決まり、事なき得た経緯(いきさつ)がございます。

ロータリーが時代と共に変化するという事を否定するものでございませぬが、その時々々の便宜主義によって、ロータリーの哲学まで捨てても良いものかどうか。ロータリーは奉仕の為の「人生道場」であることを忘れてはならないと思います。

ロータリーも既に一世紀の時を送りつつ、時代と共に運動の展開をされて参りました。当2790地区で会員が一番多かったのは石井ガバナー年度で4,350名、得居年度は2,689名、最盛期より1,661名がロータリーを去った。

当クラブでは23代三木敏靖会長年度が64名、前年度が43名で21名の減であります。今、地区全体でも減少傾向に傾いております。

そのロータリーの实体概念を掴むには、ロータリーの基礎理論を知ることが近道であります。



打ち建てたロータリーの基礎理念を、一人一人の会員が見誤る事なく自覚して行かないと、此の巨大な組織は巨大なるがゆえに方向を誤り、形骸化して行く危険をはらんでいると思われまます。

今21世紀を迎え、ロータリーは今後どうなるのか、楽観論と悲観論が蠢いております。

ロータリーは隆々と栄えて来た。ロータリーは会員一人一人が、他人に尽くすという事を信条とする所謂奉仕の精神と、一方此の団体特有の、友情という暖かい精神の二つの柱が、今日までロータリーを支えて来た大きな基本理念であったと言えましよう。

しかし、同じようなことを目指す奉仕団体は、この世には他にもいくらでもあります。

此の中にあって、ロータリーが100有余年の長さに耐えて発展して来たその秘密は、会員一人一人の奉仕の実践と言う特徴もさることながら、私はロータリーの規則と組織の厳しさにあった事と存じます。

出席の厳しさ、職業分類による一業一会員制の原則、至れり尽くせりのロータリー情報、役職の一年交替制などに見られる厳しさであります。

処が最近、やたらに会員増強に奔走するあまり、ロータリーの本来の奉仕は如何にあるべきかと言う議論よりも、会員増強のためには、どの規則をどう緩めるべきか、などという論議のみが先走り、これらの厳しさの特徴が全てにわたって乱れて来たのは、いくら時代に即応するためとは言え、ロータリーはこれで良いのかと思わざるを得ません。

今一つは、その確立された制度の中での、会員の教育の問題がございます。質の向上のためには、やはり正しいロータリー情報の普及が必要であろうかと思考するものでございます。

ロータリーの本質を理解し、奉仕の全ての活動が、軌道を踏み外さないようなルールに精通することが大事かと存じます。

ロータリアンのうちなる心を強くする。ロータリーの第一義は何か。それは心の開発、ロータリアンに奉仕の心を育てて行くことと存じます。ロータリーの真価は何でしょうか。それは先達の築いて来たロータリーでなければならない。永遠の世界に生きる偉大な価値観を、自己の生きざまに体得しようと言うところにあるからであります。

前段は此の位に致しまして

ロータリーは1905年に親睦を目的とする一業一会員制の原則が出来ました。

同業者がいなければ親睦が深まり、お互いに相異なった知恵を交換する。これによって会員の力が蓄えられてきますが、ロータリアン以外の者にはその公徳が及ばない。此の反省の中から職業人の親睦のエネルギーが他にも及びますようにと、1907年初期ロータリーにおける奉仕の概念が誕生致しました。此の思考の提唱を致しましたのが、シカゴ・クラブに入会して来た「フレデリック・シェルドン」でございまして、彼は「自分の利益と他人の利益を調和させよう」と言うことで、決議23-34号の1、のところに、ロータリーとは何ぞやとして記しました。

Service above self

彼の考え方を見ますと、企業の本質は言うまでもなく「私利利潤の追求」にあるが、その利益の金高で企業の本質を判断してはならない。これは一つの目安となる。また商取引においては、これに参加する相手もまた、幸せにならなくてはならない。そこで、利潤追求の為には何をやっても良いかということ、やって良いことと、悪いことがある。この成すべきこととなさざるべき事を何によって分かちあうかということ、「自分の利益と他人の利益を調和」させることにある。調和を計るにはある種の客観原理が無くてはならない。彼はcosmic consciousness. cosmicとは宇宙の運行の係ることで宇宙全体、consciousnessとは意識、宇宙全体の運行の背後において、これを動かしている意識と言うものがあるのではないか。此の規則性の背後に、ある種の意思が働いていると考えることが出来るのではないか、と言う考え方であります。これを日本人の気持ちにぴたりと来るように訳しまして、「天地の理法」と訳されております。

即ち経営者はひたすら「天地の理法」に耳を傾けて、自分の利益と他人の利益の調和を計るとき、その経営はある程度の利潤を得て、かつ世のため人のためになると言うのであります。

しからば天地の理法は何によって認識されるかと申しますと、己自身によって認識させるものであります。各人その程度によって個人差が出てまいります。良質なものと悪質なものと、それぞれに天地の理法が、それなりに心に写って来る。ロータリーの例会に参加するうちに自分の心を高め、自分と言うものを改善して行く過程を通じて、次第に自分の世界が高まってくると、「天地の理法」もまた、自らの手で高い水準において体得されるようになるであろう。それを目差して自己を否定しながら、自己研鑽を進めて行こうとするのが

「奉仕の世界」であり、その努力の中にロータリー運動の本態がある。これが延いては、社会の為によるエネルギーを拡げてゆく事が出来る。即ち奉仕とは「己を高めていくこと」これが

Service above self

であるというのであります、

此の考え方で企業経営を行い、業界を改善して行く。同業者、下請けにいたるまで徹底させて行く。これが1927年「職業奉仕」という名で呼ばれるようになったのでございます。

此の標語は1950年デトロイトの大会でロータリーの公式標語として議決され、今日ロータリー運動の指針として尊重されております。



利益の金高で人を判断してはならない。利益を得る為に投下された「良質は考え方」。これをもって人を評価する。これが奉仕の考え方であります。

話は替って最近のロータリーの最大の課題と言えば「会員増強」の問題で、クラブばかりでなく、地区のRI全般に亘って最大の関心事となっております。そしてその問題点として指摘されているのは、入会者が多く望めなくなったこと、退会防止に打つ手がなくなったのではないかと言うことです。

これに関連して多くの会員の声を聞きますと「ロータリーが楽しかった」と言います。

私が入会した若い頃は、ロータリーが楽しくて、次の例会が待ち遠しいくらいでした。先輩、後輩、老若の差を乗り越えて、人間関係が豊でした。一部世間で言う「親睦中心の社交クラブ」でして、加えて「対外的奉仕活動」も活発でした。皆が喜んでやったのは、「ロータリー」が楽しかったからだろうと思います。

今例会が「つまらない」と言う声があるようですが何故か。ロータリーが法人化され、会員が社員になる姿を想像すると、ロータリーの奉仕は、ノルマ達成の為に働く「人間機械」を彷彿させます。既に会員数、出席率、寄付額、支援額など、順位表がまかり通っている。ロータリーのかかる優劣順位は

「I serve」の功績と、会員個人の奉仕を無視するものであります。

ロータリアンは、各会員の誇りと愛と寛容をもって維持して来ました。此の成績順位を誇る輩、そして他の会員を非難、誹謗、批判する輩には、ロータリーに在籍する資格はないと思います。

何故なら、かかる輩には、ロータリアンの誇りや、真実の、I serve。など理解することは出来ないであります。

地域にロータリークラブが出来た意義を考えて見ますと、ロータリーの願っていることは、豊かな人間関係によって、より良い社会を作ることです。此処で言う豊かな人間関係とは、「縦のつながり」と共に「横のつながり」が緊密に組み合っていると意味であります。

縦の人間関係とは、生活に直結した「繋がり合い」であります。大企業と下請け業者、幹部と平社員、官僚と人民、先輩後輩、親分と子分と言った間柄であります。これは競争社会に生き

残るためには大切なことであります。

しかし此の「縦の関係」にのみ汲々としておりますと、業者は過当競争に陥って苦しみ、汚職のために政治は腐敗し、青年は社会に不信を抱き、不安に襲われて非行化し、暴力化してまいります。此処で所謂、人間疎開に走り、遂には「人を見たら泥棒と思え」と言った相互不審に陥って、生き乍らの地獄を見るようになって参るのであります。

では横の人間関係とは、人間兄弟という観念であり、所謂「仲間意識」であります。人間は、人それぞれの喜びと悲しみがあります。その喜びは、共に喜ぶことによって倍加し、悲しみは、これを分け合うことによって薄らぎます。

同じこの世に生を受けた者は、互いに相手の身になって考える。

即ち思いやりの心であります。この思いやりの精神を、私は「慈悲」と言い、キリストは「愛」と呼び、孔子は「仁」と唱えました。ロータリーではこれを、「奉仕の理想」と申します。

私は人間関係を織物の縦糸と横糸(経糸と緯糸)に例えることが出来ると思います。縦糸に横糸を織り込んだとき、初めて「布」となって人の身体を温かく包み、また美しい色彩や模様を織り成して、生活を楽しく致します。そして糸の性質と織り込み方によって、涼しい絹にもなり、暖かい冬物にもなります。また清潔な白布にもなり、豪華な金襴にもなるのであります。



近頃は観光ブームで何処の温泉も大賑わいであります。しかし肝心の湯の香は失せ、温泉はヌルくなって、些か、がっかりであります。ロータリー・クラブも急速に増えて、全国津々浦々、歯車のマークを見ぬ所ナシとまで行き渡り、誠に御同慶の至りですが、何か、ぬるくなった、湯の香の失せた温泉を想わせる。

温泉に浸かることは一つのレクリエーションであります。体の疲れが取れ、頭が軽くなって心が開ける。此の点、ロータリーの例会と同じであります。

湯の香漂う、いい湯加減の湯船に浸かっていると、「虎造」の一節でも唸りたくなる。

相客があれば、世間話に花も咲く。これが100%出席者の気持ちであります。

処がぬるい湯に、押し合い、へし合いでは腹立たしさが先に立って、暖まり次第早く出ようと思うだけであります。これが60%36分退席者の心理であります。

ポール・ハリスは“シカゴの例会の一時間は童心に戻る時間”であると言われました。又ある先輩は、例会は“神様になる”時間であるとも言われた。この童心、神様ともに人間の本来の姿の意味であって、浪花節に出てくる、あの無邪気な心境と通ずるものがあります。

ロータリーは日々変わっております。私達はグローバルな思考、将来を見据えた見識を持って、国家を超えた奉仕の実践を行う。そして個人レベルで、全世界の人達を善意と善意とによって結んで行く。此のある種のクールは力が、人類の永遠の夢とも言うべき世界共同体の建設を齎す事が出来るのだと言うことを強く信じて活動して参りたいと思うのでございます。

終わります。

●ニコニコ・ソーリー

千葉緑RC:大木パストガバナー補佐、岩村会長

最近はい五井グランドホテルに来ることが日常的となってまいりました。本日も、よろしく願い致します。

泉水会長との幹事同期会一同

泉水会長のご活躍を期待しております。

齊藤博会員

卓話の機会を頂きまして!!

三木敏靖会員

2011~2012年、ロータリー情報研究会 齊藤パストガバナーの講演文の冊子を一部の会員で申し訳ありませんが、お配り致します。

泉水会長、篠田幹事

本日は、大木パストガバナー補佐を始め、多くのお客様にお越し頂き大変ありがとうございました。

齊藤博会員には大変貴重なお話をありがとうございました。

●結婚・誕生

今月の誕生:

●出席報告

前々回確定 78.26% 本日出席者 31名

本日欠席者 15名 本日出席率 67.36%

●点 鐘 市原RC会長 泉水孝夫